

報 告 書

開催日時	平成 25 年 11 月 20 日（水）午後 7 時 00 分～午後 8 時 40 分	
開催場所	陸前高田市役所 4 号棟 3 階第 6 会議室	
出席議員	挨拶	佐藤信一班長（産業建設委員会委員長）
	司会進行	菅野 広紀
	報告者	佐々木一義
	記録者	菅野 定、伊勢 純
	議員	伊藤 明彦
参加人数	9 名（農業関連団体）	
懇談テーマ	市内の農業振興について	
主な要望 ・ 提言等	<p>○市政課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧復興の事業が、トータルで早く進むことを期待する。 ・ 現在、公共事業の入札で不調が多いと耳にする。さらに、工事業者の不足による計画の遅れが懸念される。 ・ 県内において、設計単価と実際の人件費や資材の価格の上昇とのずれにより、業者間においては、安い単価で仕事の発注・受注がなされ、倒産に追い込まれる会社もあるといわれている。発注先を当該地域だけにこだわらず、全国規模で考えるべき。 ・ 東京オリンピックの開催が決定したが、被災地の復興に支障が出ないように、国に対し要請してほしい。 ・ 当市の復興計画は、実際何年までかかると考えているか。 ・ 農業・漁業集落排水事業について、市からの支出が多いように見受けられる。合併浄化槽の設置を進めてほしい。 <p>○市内の農業振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループに対しての 8 / 9 の補助金は、今後も継続してほしい。 ・ 災害復旧は原形に復旧ということだが、加工場等に建物について、面積を拡大できるよう県に要望してほしい。 ・ 農業生産法人を組織し、再開させたい。 ・ 26 年度から耕作可能とのことだが、その年の収穫は 6 割程度が想定され、苗代、肥料代、機械等の支払いも収穫前に生じることから、非常に厳しい状況となる。利子補給や苗代の補助等の支援はできないか。 ・ 法人化し、担い手を育成していきたい。資金繰りを検討しながら、補助がなくても自立できるようにとの思いはあるが、現実、3 年 	

	<p>間収入が上がらないことが予想される。当市にとって大事な基幹産業を育てるということから、何らかの支援策を講じてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度中に基盤整備が完了することとなっているが、今後の経営形態をどのようにするかは検討中である。 ・ ライスセンターの計画はどのようになっているのか。即急に建設、操業してほしい。無駄と思われる設備投資により、経営を苦しめることとなる。 ・ 売り手側からすると、野菜などの作物は一斉に生産すると販売ができなくなるため、生産計画を立てながら、他地区で生産していないものを生産してほしい。そのために何らかの指導がほしい。 ・ 生産者の高齢化により、今後の仕入れが心配である。後継者の育成が急務であり、新規就農者のIターンやUターン、定年後の新しい職業としての魅力を発信する等の取組みをしてほしい。 ・ 「たかたのゆめ」について、農業施策としての今後の展開はどうなっているのか。耕作についての補助や仕組み、買い手はどうなっているのか。また、生産計画や6次産業としてはどうか。 ・ 営農指導センターについて、計画と運営体制はどうなるのか。
<p>所 感</p>	<p>○佐藤信一 農業関連団体のトップの方々の参加となったが、生産者側と販売者側のそれぞれの立場から意見を伺うことができた。</p> <p>やはり、震災からの復旧に向けての取り組みの中で、補助事業の継続性や農業関連施設整備の計画を気にする意見が多くあった。担い手不足の問題については、被災地のみならず、農業者全体が抱える喫緊の課題であることから、状況を改善させるアイデアを捻出しなければならないと感じた。</p> <p>○佐々木一義 被災した田の土壌を山から持ってきて、馴染むまで計画収穫量の3割以下の減収で、なおかつ使用する肥料は必要量投入するため、3年間収益が見込めない。農家の高齢化、被災した農家が、農業からの離脱などで農業後継者が深刻であると聞きました。</p> <p>○伊勢純 減反をめぐる国の方針が大きく変わると報道される昨今の状況の中で、生産者の悩みを感じるものとなった。経営体を集約しながらの道を探る様子が参加者からの発言を通じて理解できた。市内一次産業の復旧・復興、そして前進のため、議会においても議論を前進させていきたいと思う。</p> <p>また、販売に取り組む方々の共通した要望について、生産物の供給は、</p>

けっして単一で量的に大きく確保するだけでは業務改善につながらないことを強く理解できた。地域内での連携をうまくつなぐ仕組みづくりが議会の提案能力としても求められていることを実感した。

○菅野定

高田の農業を守るために、農業生産グループ・団体を応援しながら地域農業を育てていきたい。また、「たかたのゆめ」という新しい高田の宝物をうまく育て農家の方々が生き生きとなり、後継者が育つように協力したい。さらに、「たかたのゆめ」レストランとか「たかたのゆめ」ファームなど新しい展開がなされて、「たかたのゆめ」が地域にとって付加価値をつけられる産物で事業展開が行われるように、私自身も「夢」を持って一緒になって活動していきます。

○菅野広紀

来年から、水稻耕作出来る喜びはあるものの、土壌の状態がどのようになっているか分からない。そして、種苗、肥料経費は発生するが、収量がどのようになるか皆目見当がつかない。仮に収量が1/3だったら赤字は確実で、半分でも赤字、そんな中での水稻耕作はリスクを乗り越えて、博打みたいなもの。かと言って、水稻耕作の為に税金を投入しほ場整備をしたので耕作するしか無い。

そこで、何らかの支援制度が必要と感じる。災害補償制度の中でだけでは充分とは言えず、仮に3年間の継続事業として支援制度を設けるべきでは。

○伊藤明彦

小友地区において、既存3組合を一本化し、法人化に向けて取り組んでいることが心強く感じられた。

今後も、被災農地における農家所得確保対策が必要。

陸前高田市議会 議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成 25 年 12 月 2 日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成 25 年度議会報告会 3 班 (産業建設班)

班 長 佐 藤 信 一

